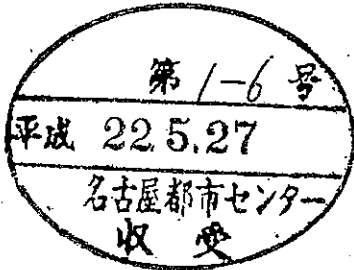


第1号様式（一部公開）

平成22年 5月27日

（あて先）

財団法人名古屋都市整備公社理事長



申請者

所在地	
公開 名称	名古屋南部アレルギーの会
代表者	

まちづくり活動助成申請書

当団体のまちづくり活動について、名古屋都市センターまちづくり活動助成金交付要綱による助成を受けたいので、下記のとおり申請します。

記

1 助成を受けようとする部門（該当部門を○で囲んで下さい）

・地域“魅力”アップ部門 ・ “はじめの一步”部門

2 団体の活動について **公開**

審査基準⑤ ・ 提案内容につながる地域での活動実績を有しているか
活動実績 （団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。）
と主体性 ・ 具体的にどんな熱意を注いでいるか

※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。
※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。
この場合、公正を期するため、A4判3枚（両面）までを限度とさせていただきます。

団体概要：

名古屋市南区においてアレルギー疾患の子どもを持つ親同士が、子どもの通う保育園をきっかけに交流活動を始めたのが活動の発端。その後、アレルギー疾患の子どもたちについて保育園だけではなく地域に広く知ってもらい、親がひとり育児に悩まぬよう親同士の交流が図れる場を地域に根付かせたいという思いから団体設立に至る。

また、目的として下記2項目を掲げている。

1. アレルギー疾患があろうがなかろうが子どもたちが子どもとして当たり前
に受ける事ができる権利を、アレルギー疾患が理由となり侵されないよう
アレルギー疾患の子どもに対する行政支援を要請するきっかけづくり。
2. 会においてはアレルギー疾患の子を持つ親が悩みを共有し、情報交換と学
習を通して励ましあう事により、アレルギーという我が子の疾患に向き合

い前向きに育児に取り組めるようになる事。

活動内容紹介：

- ①ふた月に一度、「親の交流会」を開催する。交流会にはアレルギー分野などの支援機関・団体へアドバイザー（専門家）の参加を依頼する。
- ②年に3回は講師を招いて食物アレルギーに対応の「調理実習」を実施する。
- ③地域の方々と一緒に、アレルギーについての学習会（昨年度出来なかった為、今年度以降予定）を行い、アレルギー疾患の子どもたちと保護者の現状理解を促す。

活動実績： 2009年10月 交流会 参加者7名
2009年11月 交流会 参加者7名
2009年12月 交流会 参加者20名
2010年1月 交流会 参加者26名
2010年2月 調理実習 参加者15名
2010年3月 交流会 参加者6名
2010年4月 調理実習 参加者12名（うち幼児1名）

活動成果：

会の広報活動はアレルギー外来のある病院や調剤薬局、区内保育園・幼稚園等にチラシの配布及び、行政の行う子育て支援活動の場を訪問して乳幼児の子どもを持つ保護者に直接働きかけを行った。広報活動及び会開催を重ねるごとに会の存在も地域に根付き、地域の区政協力委員・児童主任委員の方々をも巻き込んで、子どものアレルギー疾患に悩む保護者からの悩みや困りごとを地域単位で少しでも解決できるよう道筋をたてることが出来た（地域での悩みの受け入れと、保護者への働きかけ）。また、支援機関とも連携しアレルギー疾患の最新情報等を会にて提供することで、中には子どものアレルギー疾患治療に対する先の見通しを持てた保護者もあらわれた。

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめの一步”部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	アレルギー疾患の子どもとその保護者に対する支援活動
団体名	名古屋南部アレルギーの会
提案の活動を行う地域	名古屋市南区及びその近郊
提案の内容	<p>(1) 交流会の開催</p> <p>目的 ①アレルギー疾患の子を持つ親が悩みを共有し、情報交換と学習を通して励ましあう事により、アレルギーという我が子の疾患に向き合い前向きに育児に取り組めるようになる事。 ②アレルギー疾患があろうがなかろうが子どもたちが子どもとして当たり前を受ける事が出来る権利を、アレルギー疾患が理由となり侵されないよう、アレルギー疾患の子どもに対する行政支援を要請するきっかけづくり。行政支援を要請するためには、まずはアレルギー疾患の子ども達を取り巻く地域の方々に対する理解を求める事が必要不可欠な為、地域活動を広げる働きを行う。</p> <p>内容 二か月に一度開催。アレルギー分野などの支援機関・団体へアドバイザー（専門家）の参加を依頼する。 交流会及び調理実習を開催する前には、毎回主たるメンバー（会役員）が集まり、4～5回の打ち合わせを行っている。打ち合わせでは会のテーマを検討・決定し、それに即したタイムスケジュールを決定する。</p> <p>交流会では下記のことを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家から最新の治療情報について話を聞く ・ 子どものアレルギーの悩みを抱える保護者同士が悩みを共有して地域でつながるきっかけを作る ・ 地域の区政協力委員・児童主任委員の方々にも協力いただき、地域一体となって知識を高めるとともに、悩みを抱えて地域の中で埋もれている保護者へのアプローチも協力いただいている。 <p>また、アレルギー疾患の子ども達が、共存できる安心安全な環境を作っていくための話し合いにも一緒に行う。</p> <p>(2) 調理実習の開催</p> <p>目的 ①アレルギー疾患の子ども達は成長盛んで食欲旺盛であれど、アレルギーが原因で食べる事が出来ない食品がある。そのような条件下でも、使用可能な限りの食材を用いておいしく楽しく食事ができるような献立作成を保護者が可能になること。 ②アレルギー疾患の子どもでも摂取可能なアレルギー対応品を地域で入手できるよう小売店主などへ働き掛けること。</p> <p>内容 栄養士等アドバイザーを招聘して指導を受ける。また、地域の店で</p>

	購入可能なアレルギー対応食品を用いて調理・試食をする。		
	例：・小麦粉アレルギーも摂取可能な米粉きしめんの調理実習 ・卵・乳・大豆・小麦・落花生の5大アレルゲンを含まない米粉ケーキの調理実習		
活動期間	平成22年4月～平成23年3月	助成金交付申請額	20万円

2 提案内容について

「1. 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感 が得られる活動か
<p><初の地域団体></p> <p>疾患に対する患者会は多々存在するが、我々のような“アレルギー疾患の子どもを持つ保護者の会”は、地域では存在しなかった。新聞社に取材してもらい、地域発行のホームニュースに活動を取り上げてもらったところ、記事を目にした地域住民からの問合せが相次いだ。</p> <p><保護者として子どもの為の生活環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの喘息発作、アトピー性皮膚炎のかゆみで親子共に不眠不休 ・アレルギーの食品が多過ぎて日々の食事準備に困っている ・周囲の理解が得られず、親の過保護・育児ノイローゼと勘違いされてしまう <p>等、アレルギー疾患の子どもを持つ保護者は沢山の悩みを抱えている。なにか特別な支援を望んでいるわけではなく、「アレルギーがあっても安心安全に過ごせる環境をつくりたい」という思いで活動を行っている。地域の方々に広く理解を求め、子どもの成長に欠かせない地域での生活基盤づくりを促進する活動が必要である。</p> <p><食物アレルギーに関わる食品></p> <p>調理実習に地域の酒屋店主に参加していただき、アレルギーについて学んで頂いた。そのことがきっかけで、アレルギー疾患の子どもでも摂取可能なみりんや醤油等扱ってもらえるようになったのは大きな成果である。この働きかけにより、アレルギー疾患の子どもを持つ保護者にとっては、それまで入手困難であったアレルギー対応食品を近くで購入できるようになった。それと共に、保護者にとっては“いつも買い物する酒屋さんにアレルギーの事を理解してもらえた”という、心理的な安心感と地域での理解を広げられるという利点につながる。前述のように、アレルギーについて地域での理解を広げる事は、誰もが住みよい地域づくり活動のひとつとなるのではないか。</p> <p><子育て支援との絡み></p> <p>アレルギー疾患といえども様々な疾患があるが、重篤なアレルギー疾患の子どもを持つ保護者、特に子どもが乳幼児の場合はアレルギー疾患に加えて成長発達にも悩みが及ぶ事がある。例えば乳児期に母乳から初めての食事にトライし“おかゆ”を与えてみたところ、米のアレルギーと判明した保護者は、子どもの食に対する不安から先の育児に対する不安へと不安が広がり育児ノイローゼになりかけた。会では、新米・ベテラン・父・母・祖父・祖母問わず全ての会員が子育て経験者である為に、アレルギー疾患に関する悩みの話し合いや情報交換をするだけではなく、子育てに関する悩みについてや育児情報にまで話が及ぶ時も多々ある。そういった保護者の子育て支援の一環を担う会でもある。会参加者にとっては“地域で子どもを支えている”という意識の高まりにつながり、地域での理解・関わりを更に広げようという気持ちも高まるのではないか。</p>	

審査基準②
独創性

- ・創意工夫にあふれた活動か
- ・地域性を活かした個性豊かな活動か
- ・新しい視点やアイデアがあるか

<アレルギー対応品は体に優しい>

アレルギー疾患の子どもたちが口にする、いわゆるアレルギー対応食というものは、添加物や着色料等一切使わないとてもシンプルな食品であることが多い。いわば、食の原点に立ち返った食品である。今日、私たちの口にする食品は合成保存料や合成着色料、砂糖と比にならないほどの甘味料等を使用したものがあふれている。子どもが友だち同士でオヤツを食べる時などに、アレルギー対応オヤツを利用してもらうことは、結果として体に優しい食い品摂取になる。また、肌が痒い症状が出るアトピー性皮膚炎の子ども用に開発された、かゆみを緩和させる肌着には、天然草で着色した吸汗性・通気性にも富んだ木綿100%のものがある。これは、アトピー性皮膚炎の子どもだけでなく汗かきな全ての子どもたちにとって肌に優しい品である。アレルギー疾患だから使用するのではなく、“体によいものとはなんだろう”という視点でプラス思考に捉えて、こういった品にもっと地域で理解を深めていければと思う。

審査基準③
実現性

- ・提案内容が具体的にになっているか
- ・予算は妥当か

時期	活動内容
平成22年4月	4/26 調理実習開催済
5月中	6月開催用チラシ作成・配布と広報活動
6月	6/22 交流会開催
7月中	8月開催用チラシ作成・配布と広報活動
8月	8/24 交流会開催
9月中	10月開催用チラシ作成・配布と広報活動
10月	10/19 交流会及び調理実習開催
11月中	12月開催用チラシ作成・配布と広報活動
12月	12/21 交流会及び調理実習開催
平成23年1月中	2月開催用チラシ作成・配布と広報活動
2月	2月中、交流会開催（日程未定）
3月	次年度計画打ち合わせと22年度決算報告書作成。 4月開催用チラシ作成・配布と広報活動

活動に合わせた広報紙（チラシ）の作成・配布と各所に掲示依頼。
また、参加者への電話・チラシ送付による参加・不参加確認。
会開催日以外でもメイン活動者による電話での相談は行っている。

審査基準④
発展性

- ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
- ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

球温暖化や環境ホルモン問題など、近年子どもたちをとりまく環境は劇的に変化し、子どものみならず、アトピー性皮膚炎・喘息・食物アレルギー等の“アレルギー疾患”を抱える人は増加の傾向にある。“アレルギー”が周囲から“体質”と扱われ、“疾患”とみなされないこともあるが、中には日常生活に支障をきたすような程度が重篤な者も存在する。地域の中で“アレルギー疾患を抱える子どもの保護者”が孤立しないよう地域全体を巻き込んでアレルギー疾患に対する理解が深まるような学習会や講演など行いたいと考えている。助成を賜ったのちは、地域ぐるみの講演などが将来的に開催出来るよう、基礎的な地域でのつながりを今以上に深く形成できるよう更なる努力を重ねたいと考えている。地震による避難時などに配布される避難食は、アレルギー疾患の子どもは食べられないことがあり、避難食を摂取することで命に関わる食物アレルギーの症状を起こす者もいる。今後は、防災など地域でのつながりが重視される場面において、アレルギー疾患の子どもへの理解を広げていければと思う。

※ が第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。

※ 用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とします。